



いま 現在を生きる

4つのHを胸に、自分たち流の活動を。

当別町4Hクラブ

皆さんは4Hクラブを知っていますか？20世紀初めに青年農業後継者のクラブとしてアメリカで誕生しました。現在クラブは世界各地にあり、地域農業の振興のために技術の向上やクラブ員の親睦を図ることを活動の大きな目的としています。

当別町では昭和24年に設立され55周年の記念を迎えました。現在39代目の会長を稲村英樹さん（東裏）が務め20代を中心に21人のクラブ員が農業技術向上や環境美化運動など精力的な活動をしています。



4Hとは、『農業の改良と生活の改善に役立つ腕を磨く(HAND)』『科学的に物を考える事のできる頭を訓練する(HEAD)』『誠実で友情に富む心を培う(HEART)』『楽しく暮らし元気で働くための健康を増進する(HEALTH)』という4つの目標を掲げています。

現在4Hクラブは、石狩管内では当別町にしかなく、設立当時は全道に641あったクラブも農業人口、新規就業者の減少や活動の低迷などで、多くが解散や休止してしまいました。

そんな中、当別の4Hクラブは55周年を迎え、昨年の5月から準備委員会を立ち上げ今年3月には歴代の会長を招いて、会員手作りのしおりや記念誌で盛大に記念式典を開催しました。記念事業実行委員長を務めた稲村さんは「55年間の活動は時と共に常に変化してきました。しかし、どの時代も4Hでなければできない活動の魅力があったと感じています。また、石狩北部地区農業改良普及センターには長い間事務局として支えていただき感謝しています」と55周年の大事業を終え、更なる活動の自信をのぞかせます。

昨年と今年の5月には、クラブ員の田畑、排水溝やその周辺の幹線道路沿いに、除雪車などが飛ばした空き缶・ビニールなどを拾う『幹線沿い環境美化事業』のゴミ拾い活動に取り組みました。「ただの美化運動ではなく、これらのゴミが農業の妨げになることをみんなに知ってもらいたいですね。当別町全体の問題としてとらえて欲しい」と問題を投げかけながら活動を続けています。

また、農業に携わる人が農業の未来について夢や展望を語り学び育て合う『石狩アグリフォーラム』

に毎年参加し、独自に考え実践したプロジェクトを発表しています。昨年は最優秀賞にも輝き、さらなる活動のバネにしています。その一つに、「ケイ酸追肥プロジェクト」があり、8人のグループでケイ酸を追肥することで、低タンパク米を生産する取り組みを2年間行いました。天候不順などで良い結果には結びつきませんでした。が、得た情報や知識には自信が持てました。

また、10月に行った『農業体験&交流ツアー』に、インターネットなどで参加者を募集したところ、本州方面から2人の独身女性の応募があり、1泊2日で『トマトの収穫、稲刈り、農業機械の搭乗』などの体験をとおして農業に興味を持ってもらうことができました。「この企画は2001年のアグリフォーラムに参加したときの討論会から始まったものです。各方面の支援を受けながらの実現には問題も多く、それならクラブ独自でやっしまえ！と勢いでやっしまいました」と稲村会長の行動力が光ります。

今年は『鶏の飼料を変えると卵の黄身の色は変化するか』、当別では不向きと言われる直接水田に「もみ」を蒔く水稲の『湛水直播』に挑戦するプロジェクトなど若い力に限りは感じられません。

熱意ある青年農業者がいるかぎり急激に変化する農業情勢に俊敏に対応し、農業振興のために益々活躍されることでしょう。



幹線沿い環境美化事業

